

**国公立大 前期日程試験 ～3年生～**

2月25日(火)26日(水)の2日間にわたり、国公立大学の2次試験(前期日程試験)が実施されました。本校55期生も、241名が国公立大学の2次試験にそれぞれ挑みました。124名が受験した鹿児島大学では、試験直前の張り詰めた雰囲気印象的でした。試験終了後に55期生を迎えた先生方によると、最後まで力を出し切ったような表情だったそうです。

今年はセンター試験後の2次試験対策期間が35日間でした。短い期間でしたが、逆に集中して充実した演習ができたのではないのでしょうか。これまでに経験がないほどの質と量の過去問演習を通して、自分の2次力の伸びを自覚できた人も多かったのではないのでしょうか。国公立大学の前期日程の合格発表は3月1日(日)以降、順次行われます。吉報を待ちたいと思います。

また、前期日程終了と同時に、中期・後期日程試験に向けて55期生は再スタートを切りました。まだまだ戦いは続きます。頑張れ55期生!

進級に向けた準備を ～1・2年生～

学年末考査も終わり、1・2年生にとっては比較的落ち着いた過ごすことのできる時期がやってきます。一方で、注意も必要です。3月から5月にかけては、高校入試の自宅学習期間、春休み、GWなど学校に来ない日が多いのです。学校行事等を考えると、授業のある日より授業のない日の方が多くなります。このような時期だからこそ、「自主的な学習にどう取り組むか」が重要です。宿題の提出期限が迫ったから取り組む、という学習姿勢の人は改めましょう。この時期を有効活用して既習の学習内容を振り返り、自分を伸ばしてほしいと思います。

1年次に身につけた「基礎・基本」が共通テストでは問われます。1年生は、次年度に新たな科目が追加される前に、今年度の学習内容を確実に振り返りましょう。2年生のこの時期は、よく「3年ゼロ学期」と言われますが、意識しているでしょうか。9月には共通テストの出願をします。もう「受験イヤー」に入っているのです。「受験生」として受験を見据え、自分に何の力が足りないのか、どういうスケジュールで取り組んでいけば間に合うのか、イメージしてください。1年後に大きな花を咲かせられるよう、「受験生」という自覚を持ちましょう。

ところで、先月に実施された大学入試センター試験の各教科分析も続々と公開されています。Benesseのサイトには、今回の分析を踏まえた次年度へ向けたコメントも掲載されています。その一部を簡略化して紹介します。

国語	言語活動の場面設定や複数資料の提示を通じた出題が予想される。表面的な読解にとどまらず、深い思考力を身につける。
数学	定理・公式の深い理解を問う問題に対応できるよう、「なぜ成り立つのか」などの疑問を持ちながら学習することを心がける。
英語	読む力や思考力がさらに広範に問われる。語彙や文法の出題はなくなるが、そうした基本を大切にしつつ、読む力と思考力をつけていく。

共通するのは、「広く深く考える力」です。対策としては、「進路指導室便り9月号」で紹介したセルフティーチングも有効です。日頃の振り返りの質を高め、確実な理解を積み重ねていきましょう。

「大学入学共通テスト」情報

大学入試センターが1月29日に情報を公開しました。以下は、2021年実施の「大学入学共通テスト」における、「大学入試センター試験」からの変更点です。出題内容などについては、今後の情報収集が必要ですが、ひとまずは形式が変わる部分を紹介します。

数学Ⅰ・A	*試験時間70分 配点100点 (センター試験は60分100点)
英語筆記	*「リーディング」に改称。 *試験時間80分 配点100点 (センター試験は80分200点)
リスニング	*試験時間60分 配点100点 (センター試験は60分50点) ※ともに準備時間等を抜いた解答時間は30分。

将来的な英語外部検定の扱いや段階的評価についてなど、入試制度へのアンテナは今後も高く張り巡らせなければなりません。

ただし、「高校で学んだことの成果」を求められるという点においては、これからも変わることはありません。たとえ出題形式が変わったとしても、迷ったり弱気になったりすることのないよう、「圧倒的な基礎力」を身につけていきましょう。

限りある時間の使い方について考える



私は常に自分のクラスで「授業に参加すること、限りある時間の使い方」について考えるように話をしています。皆さんも分かっていることではあると思いますが、いろいろな誘惑があり、結局は実行できないのが現実ではないでしょうか？確かに、私自身も授業ではよく寝てしまっていたような……。実は授業にきちんと参加できれば、それだけで内容の理解度がより一層高まるので、やる気も高まり、自宅学習も無意識のうちに無駄を省いて行うようになるはず。

そこで、いよいよ来年度中堅学年となる皆さんが「授業への参加と限りある時間の使い方」をどのようにして実行していけば良いか、私なりにアドバイスしていきたいと思います。

●1日を3分割して再考してみよう ⇒ 時間を上手に使うために、現在の生活時間（平日）を再度認識する。

① 学校（通学時間・部活動等）（12 時間） ② 睡眠（6 時間） ③ 食事、自由時間等（2 時間）

とすると、残りの4時間の使い方が重要ポイントになります。この限られた時間を有効に活用するために以下の点を参考にしてほしいと思います。そして、休みの多い3月～4月新学期開始までの期間を上手に乗り越えてほしいと思います。

●時間の使い方を見える形に置き換えて考えてみる

まずは、時間に追われている原因を突き詰めよう。その原因を改善していくことで、多くの時間を生み出せるも…。

例えば、授業にきちんと参加できていれば、夜自宅で時間に追われながら限られた時間の多くを、復習の時間に充てる必要もなくなるので、そのことが原因の一つであると発見できるのではないですか？

●すぎ間時間を無駄にしない

スマホや TV 等、細切れの時間から 1 時間ぐらいは生み出せる。休み時間も授業の復習をするなどしてみたらどうか？

●朝と夜の 1 時間を大事にする

工夫が必要となるのは、朝と夜の 1 時間程かも……。特に帰宅後の時間を再度見直してみよう。

●生活をパターン化させてみよう

効率を上げたいなら、時間の使い方をパターン化するのが一番です。生活リズムが一定になってくると、1つ1つの行動が自然と磨かれ、さらに質が高まっていきます。パターン化することによる一番のメリットは、無駄な時間が無くなることです。選択肢が多くなったり、悩んだりすると、人はどの選択肢も選ばず、回避する傾向があります。パターン化させることで無駄な事を考える時間を省くことができるはず。

●時間のマネジメントはゴール地点から逆算を

時間を有効に使うために、まずはゴールを決め、そこから何をやるかを逆算しよう。締切を設定し、自分自身にプレッシャーをかけることで、日頃気にしていない時間を強く意識するようになり、集中力も高まり効率も大幅にアップすると思います。結果として、無駄な時間を省くことができるはず。決して嫌なことを先送りにしないでほしいと思います。

●「やらない勇気」をもつことができるか

限られた時間の中で自分のやるべきことを優先するとき、やりたいことをいかに排除するかが大切です。つまり「やらないと決めたことはやらない。」ということです。時間は有限。優先順位の低いものは削除していく勇気も必要です。

●インターバルはできるだけ短くする

適度な休憩は必要ですが、次のことをするまでの時間はできるだけ短くしよう。休憩が長くなる原因は、次に何をするかを考えていないからでは？集中力を維持するため、次にすることをあらかじめ頭の中にインプットしておこう。

<最後に……>

上記の内容を実行できれば、今後卒業までの長期にわたる時間の管理も可能になるはず。目的意識を持って毎時間の授業に臨み、加えて常に前向きな生活を送れば、「中だるみの学年」とは無縁になるはず。皆さんが、中身の濃い、充実した日々を積み重ねていくことを心より願っています。新年度、57期生全員がよいスタートを切れますように……。

（文責 1年3組 担任 川元 義久）

誕生日事典を手にとってみた。「気になるあの人の本性が誕生日だけでわかる！」・・・とある。自分の誕生日のページを開くと、「能力はあるのにキャパが極端に狭すぎる。」・・・!?。ひどい言われようだ。さらに「鋭い直感の持ち主で、物事をいつも冷静かつ論理的にとらえている。負けん気も強く、一度決めたことは最後までやり遂げる根性もある。プライドが高く自信もあるが、なぜかいつもキャパオーバーになる。あれこれと手を広げると、何一つ完遂せずに終わることも多い。」・・・。褒めているようで褒めていない。じゃあ、他の人たちはどうだろうと調べてみた。誰のことが想像しながら読んでみてほしい。

<p>① シャイな一匹狼のくせにサービス精神だけは異常に旺盛 「サービス精神旺盛で、よく人を笑わせたりする人気者。ただし基本的には自分の世界に閉じこもる精神的引きこもりである。バカなふりをして周囲に溶け込む一方で、自分の内側は一切明かさず、誰も信用していない。深く心を許せる友人は片手で足りるくらいしかない。」</p>
<p>② 愛されていないと不安なの・・・ハート弱すぎのかまってちゃん 「周囲にはいつも人が集まり賑やかだが、実は自分に自信がなく、思春期の中学生のごとく面倒なかまってちゃん。人に愛されることで安心しているが、だいたい度がすぎて束縛と受け取られ嫌われる。求めるだけでなく、お互い与え合うような関係を築こう。」</p>
<p>③ 自分にも他人にも妥協しない面倒な親戚のおばはんタイプ 「何事も白黒はっきりつけなければ気が済まないタイプ。受け流したり、妥協したりするのが嫌いなので、他の人がひるむような問題でも果敢に立ち向かう。自分にも他人にも妥協しないので熱くなりすぎて「重たい」と言われることも。勇気と度胸があると言えば聞こえはいいが・・・」</p>

「あ～っ、そうなのかもしれない！」とその人たちをイメージしながら読んでいた。

話は変わるが、学年最後の考査・・・どのような形で臨めただろうか？

計画立てて試験に臨むことができた、ちゃんと準備せずに受けることになった等、それぞれだろう。この1年間どのように学校生活を過ごしてきたか？予習→授業→復習という学習のサイクルが習慣化でき、ひたむきに努力できた。宿題、訂正に追われ続けた。それともだらだらとその日を乗り切れればそれでいいと過ごしてきた。・・・いずれにせよ学年末考査が終了した。



そして3年生は前期試験が終了した。次は自分たちの番だという意識を持っているだろうか。3人の例を挙げたように、人にはそれぞれいろんな本性（性格）がある。また、この事典には「(自分の考えていることや、目に見えていることがすべてだと感じている) 顕在意識はたったの5%で、95%は潜在意識として知覚されていない」とも書いてある。自分のことを理解しているつもりでもそうではない、ということである。学力についても同じだろう。これから先、目の前の試験に一喜一憂するのではなく、進路実現に向けて何をやるべきか。今から、知覚されていない自分を、目標達成のための努力の過程で知覚できるようにしていこう。